

「人という存在」

3年 J.N

みなさんは「自分を変えてくれた場所」といっても過言ではない、そんな場所に出会ったことはありますか。

私は、幼い頃今では考えられないほど内気な性格でした。同じマンションに住んでいる方に出会った時などには、あいさつもできず母に何度も叱られたことを覚えています。声も小さく人見知りです。初めて会う人と話すには緊張して上手く話せないことが多くありました。私は、そんな性格だったため受験をし私立の小学校に入学しました。

私が変わるきっかけが訪れたのは小学三年生でした。父の転勤で関西へ引越すことになり、私立から公立の小学校へ転校することが決まりました。最初に転校すると聞かされた時は嫌で嫌で毎日泣いていたのを今でも覚えています。しかし、今考えると本当に行って良かったと心から思うことができます。

小学三年生の六月から約四年間兵庫県で生活して性格はもちろん、考え方も変わりました。最初は驚くことばかりで何もかもが初めての体験でした。関西弁は口調も強いですし、声も大きく、この人達と仲良くなるなんて無理だと思ってしまったこともあります。しかし、そんなことは全くなく、たくさんの人が話しかけてくれていつのまにか大好きな場所が変わっていきました。

学校が終わってからは友達に連れられ川や山の方へ遊びに行ったりなど、東京では体験することのできないことをたくさんしました。また、楽しいことだけではなく深く考えさせられることもありました。年に一度1・17の集いというものが学校で行われ、阪神・淡路大震災について学ぶ機会が設けられていました。普段ニュースで見かけると思わず目を逸らしてしまう火事の光景・遺族の言葉を目にし、見なかったことにしてはいけない目を逸らしてはいけない出来事なのだと、また二度と同じような事が起こってほしくないと考えさせられました。私は、昔から心が痛くなるような本や映像を見ることが苦手で、できれば見たくないと心のどこかで思っていました。しかし、このような機会が与えられていたことで、だんだん薄れていく記憶の中で今も苦しんでいる人がいる。だからそういう人達から目を逸らすようなひどい事をしてはいけないのだと思い知らされました。

私は、この場所に出会い性格も考え方も変わりました。場所というより自分と同じ様な考え方の人だけでなく様々な考え方をする人に出会えたことが、私を変えてくれるきっかけになったような気がします。もし私が転校せずに私立の小学校に通っていたら、自分と同じ価値観の人としか関わっていなかったため今の自分はないはずです。私の小学校の卒業文集には「人を笑顔にできるような、そして少しでも人の力になれるような人になりたい」と書かれていました。その文集を書いた時はなんとなく気付くことはありませんでしたが、今はこの時になぜこのような心持ちになれたのかはっきりと分かります。転校してきたばかりで不安だった私に優しく話しかけてくれた人、震災の経験を話して下さった方、その他にもたくさんの人の働きが私の考え方を変えたきっかけになったのだと思います。だから今までたくさんの人に支えられてきた分、私も「出会って良かったと思われる人になりたい。小さな

幸せを作れる人になりたい。」そう感じていたのだろうと思います。

この感話を書き始めた時は、冒頭で述べた通り、「場所」に感謝していると思っていました。しかし、「場所」ではなく「人」に出会えたことが自分を変えてくれたのだと気付かされました。今まで自分を変えてくれた「人」、そしてこれから自分を支えて下さる「人」に感謝することを忘れずにいたいです。今は支えられてばかりですが、いつか自分がその立場に立ちたいです。